

1回生 必修教科「家庭」授業のシラバス

教科名	技術・家庭	科目名	家庭分野	単位数	3.5	時間
科目の目標	○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。 ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。					
教科書	技術・家庭 家庭分野（開隆堂） 生活の土台 自立と共生	副教材	家庭科ワークノートA 家族・家庭生活 家庭科ワークノートB-2 衣生活・住生活			

1 学習の目標

- より良い家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、知識・技能も身に付け、これからの生活を展望して生活課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
- 豊かな衣生活に向けて考え、工夫する活動を通して、衣服の適切な選択着用、計画的な活用、手入れ、製作に関する知識・技能を身に付け、これからの生活を展望して、衣生活の課題を解決する力を養い、衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
- 豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、住空間との関わり、基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

2 学習の方法

- 予習について
毎回ではありませんが、あらかじめ調べたり、考えたりしてくるよう指示することがあります。
- 授業について
教科書、ワーク、ワークシート、裁縫道具、ファイルを使います。
- 復習について
学んだことを生活に活かしましょう。

<学習アドバイス> ○定期考査、レポート提出、グループ発表などを行います。 ○定期考査は、授業や実習などについて、教科書やワーク、授業プリントから主に出题します。このほか、実習で製作した作品も評価の対象となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	家族・家庭や地域の生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指し、これからの生活を展望して工夫し創造している。
③主体的に学習に取り組む態度	衣食住や家族の生活などに関する知識・技能を身に付け、家族や地域の人々と協働して生活を工夫し創造し、主体的に実践しようとしている。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料	定期考査	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ワークシート	討議				
①知識・技能		○		○	○	○	○		○					
②思考・判断・表現		○			○	○	○	○	○	○				
③主体的に学習に取り組む態度					○	○	○	○	○	○				

<担当者からのメッセージ> ○人間が生きていく上で、衣・食・住・家族・環境・消費についての知識や技術がいかに必要であるかを理解し、「できる！（実践する）」ところまで高めていきましょう。

■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探求心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くしなやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心を持ち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を探ることができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析して、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を整理・分析し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることがなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さと健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体をもち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画 ※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	資質・能力
4	A 家族・家庭生活 1. 自分の成長と家族・家庭生活 (5)	○自分の成長と家族・家庭生活 ○家族・家庭や地域との関わり ○家族・家庭生活についての課題と実践	①家庭や家族の基本的な機能を理解しており、家族や地域の人々と協働して家庭生活を営む必要があることを学ぼうとしている。 ②家族関係を良くするために協働する方法について課題を設定し、解決する力を身に付けようとしている。 ③自分と家族の関わりや自分の生活の中にある課題解決に主体的に取り組んだり、関心を持って学ぼうとしている。	ワークノート提出	ABCD
5					
6	B 衣食住の生活 1. 生活を豊かにするものの製作 (12)	○被服製作の基礎知識 ○被服実習 (手縫い) ○被服実習 (ミシン縫い)	①手縫い技術が身につけており、ミシンの扱い方について理解し、ミシンの直線縫いを身につけている。 ②見通しを持って製作に取り組んでいる。 ③製作活動に意欲的に取り組んでいる。 ③着装に関心を持って学ぼうとしている。		ABDG ABCL
7					
8	2. 目的に応じた衣服の選択 (2)	○衣服のはたらき ○自分らしく TPO に応じた着装 ○衣服の活用と選択	①TPO に応じたドレスコードについて理解している。 ①TPO に応じた服装を着こなしている。 ②ポイントを理解し、既製服を選択することができる。		ABCG
9	3. 日常着の手入れと保管 (6)	○衣服の素材 ○衣服の基本的な手入れの方法 ○衣服の補修とアイロン	①衣服の素材の種類と特徴を理解している。 ②日常着の手入れの仕方について理解し、実践を評価・改善することができる。 ①③素材や汚れの種類に応じた衣服の手入れをしている。	期末考查 ワークノート提出	ABG
10	4. 持続可能な衣生活 (2)	○環境への影響を考える ○持続可能な社会へ向けて	②環境に与える影響について関心を持って学んでいる。 ③環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。		ABCEJ
11	5. 安全な住まいで安心な暮らし (2)	○住まいの安全 (事故や災害への備え)	①③家庭内事故の原因を理解し、予防策を考え実践している。 ②家庭における事故の発生原因及び発生箇所を理解している。 ①②③災害への備えについて考えるとともに実際に行動することができる。		ABCDFG M
12	6. 住まいのはたらきとこころよさ (2)	○住まいの役割 ○空間と生活行為	②住まいに関心をもって学ぼうとしている。 ①③家族の立場を理解しそれぞれの願いに応じた間取りを計画している。		ABDF
1					
2	7. 安全な住まいで安心な暮らし (2)	○快適な室内環境 ○住まいの掃除	③快適に住まうために計画立案に意欲的に取り組める。 ①②季節に応じて、住まいの温度環境及び湿度の環境を適切に整えている。	期末考查	ABGL
3	8. 持続可能な住生活 (2)	○住まいと環境	②③環境問題を考慮しながら住まいについて考えることができる。		ABCDM